

内井 佑花さん

大学院専門職学位課程
小学校教員養成特別コース2年

昭和63(1988)年、福岡町生まれ。大学卒業後、バドミントン日本リーグ女子1部の北都銀行で2年間プレーし、平成24(2012)年、大学院に入学。昨年8月、母校の日ノ本学園高校の職員として出場した全日本教職員選手権大会でシングルス、ダブルスとも3位に入り、12月の全日本総合選手権大会へ進出した。



↑昨年の全日本教職員選手権大会。ダブルスを組む野村このみさんと

キラリな人
SHINY PERSON

昨年12月、日本ランキング上位選手と各カテゴリーの全国大会上位成績者によって争われた全日本総合バドミントン選手権大会。全日本教職員選手権大会でシングルス、ダブルスとも3位に入り出場を果たしたものの、どちらも予選1回戦で敗れた。

「実業団を辞めて2年。日頃の練習不足の影響が出ましたね。ここに打ってくると分かっていたけど体が反応しませんでした」と苦笑する。

小学4年生で本格的にバドミントンを始め、北海道の強豪、北翔大学へ進む。卒業後の平成22(2010)年から2年間、日本リーグ女子1部の北都銀行でプレーするが、シングルスの控え選手に甘んじ、リーグ戦では出番がなかった。「中学生の時から常に周りに突出した選手がいて、私は二番手でした」

中学校にはバドミントン部がなく、地元クラブチームに通った。中学総体は地区の出場枠が1人だったため、一度も出場できなかった。「私よりも弱い都会の子がたくさん出ているの

に...」。折れそうな心を励ましてくれたのが、体力づくりのために所属していた陸上競技部の顧問だった。「体育の先生で、当時のもやもやした気持ちをよく察してくれました」。その顧問への憧れから、大学在学中に中高の体育教員の免許状を取得した。

23(2011)年12月、北都銀行との選手契約が切れるのを機に、福岡町の実家へ帰ることに。「バドミントンしかしてこなかった自分がこのまま教員になつていいのだろうか」と、大学院への進学を決意する。

入学後は週2日、母校の日ノ本学園高校のバドミントン部を指導。昨年の県大会では好成績を挙げるなど、指導者としてのやりがいも感じ始めている。

「教員になって全国レベルの選手を育てるのも夢の一つです。でも、全日本総合で負けたのがすごく悔しくて。そういう気持ちがある間は大会に出続けたいと思います」。プレーヤーと指導者の二足のわらじは、しばらく続きそうだ。

今もなお
勝負へのこだわり
一線を退くのは
まだ先です

